※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

高齢者の交通事故発生状況

令和7年中

1　高齢者事故の発生状況

令和７年中の高齢者（65歳以上の人）が死傷した交通事故は、前年と比較して発生件数は増加しましたが、負傷者数は減少しました。

また、死亡事故は23件23人発生し、前年比３件３人減少しました。

死傷者の状態別では、四輪車運転中が約５割（600人中284人。47.3%）を占めて最も多く、次いで歩行中が約２割（139人。23.2%）を占めました。

また、高齢者の死者は、歩行中（10人。43.5%）と四輪車運転中（９人。39.1%）で多くなりました。

【高齢者事故の発生状況】　（令和７年）

区　分		発生件数	死亡事故		負傷者数		
			件　数	死者数	重　傷	軽　傷	計
本　年		557	23	23	156	423	579
前　年		551	26	26	136	447	583
増減	数	6	−3	−3	20	−24	−4
	率	1.1	−11.5	−11.5	14.7	−5.4	−0.7

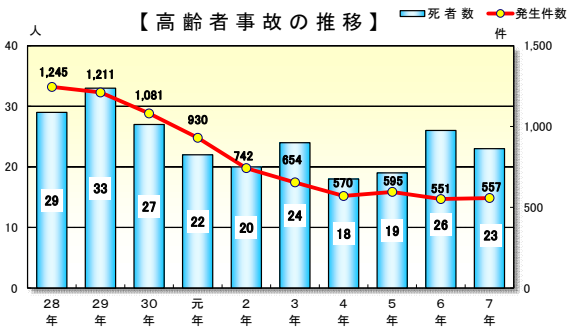
【状態別高齢死傷者数】　（令和７年）

区　分	歩行中	四輪運転	四輪同乗	二輪乗車	自転車	その他	計
死　者	10	9	0	1	3	0	23
構成率	43.5	39.1	0.0	4.3	13.0	0.0	100.0
重傷者	69	33	15	12	27	0	156
構成率	44.2	21.2	9.6	7.7	17.3	0.0	100.0
軽傷者	60	244	76	9	34	0	423
構成率	14.2	57.7	18.0	2.1	8.0	0.0	100.0
死傷者	139	286	91	22	64	0	602
構成率	23.1	47.5	15.1	3.7	10.6	0.0	100.0

2　高齢者事故の発生推移（基礎データ平成28年～令和7年）

全人身交通事故が10年間で53.3%減少（平成28年7,986件→令和７年3,730件。-4,256件）しているところ、高齢者事故は55.3%の減少（平成28年1,245件→令和７年557件。-688件）となっています。

令和７年は、全交通事故死者の約６割（38人中23人。60.5%）を高齢者が占めました。



区　分		28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
高齢者	発生件数	1,245	1,211	1,081	930	742	654	570	595	551	557
	死者数	29	33	27	22	20	24	18	19	26	23
	負傷者	1,363	1,303	1,166	1,011	785	701	596	629	583	579
全事故	発生件数	7,986	7,491	6,815	5,675	4,487	4,286	4,117	4,033	3,785	3,730
	死者数	71	51	56	65	44	42	37	47	47	38
	負傷者	10,057	9,353	8,509	6,941	5,483	5,182	4,912	4,932	4,565	4,533
構成率	発生件数	15.6	16.2	15.9	16.4	16.5	15.3	13.8	14.8	14.6	14.9
	死者数	40.8	64.7	48.2	33.8	45.5	57.1	48.6	40.4	55.3	60.5
	負傷者	13.6	13.9	13.7	14.6	14.3	13.5	12.1	12.8	12.8	12.8

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

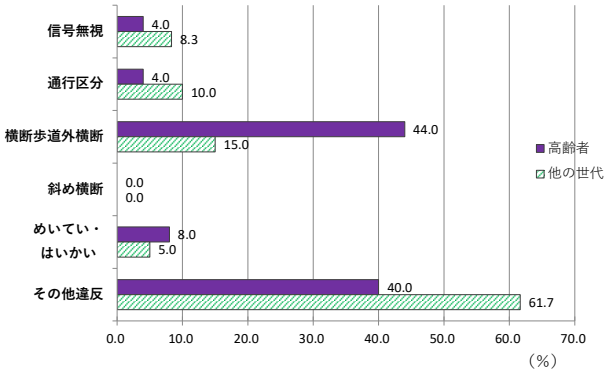
3　高齢者事故の発生特徴等（基礎データ令和7年中）

(1)　歩行中の構成率が他の世代よりも高い

高齢死傷者の状態別で最も多いのは、四輪車運転中（602人中286人。47.5%）でしたが、歩行中についても多く（139人。23.1%）、他の世代の歩行中死傷者（3969人中415人。10.5%）と比較すると高い構成率となりました。

また、歩行中の高齢者の死傷者139人中25人（18.0%）に何らかの原因が認められ、そのうち横断歩道外横断が11人（44.0%）、めいてい・はいかいが２人（8.0%）となりました。

【歩行者の原因】

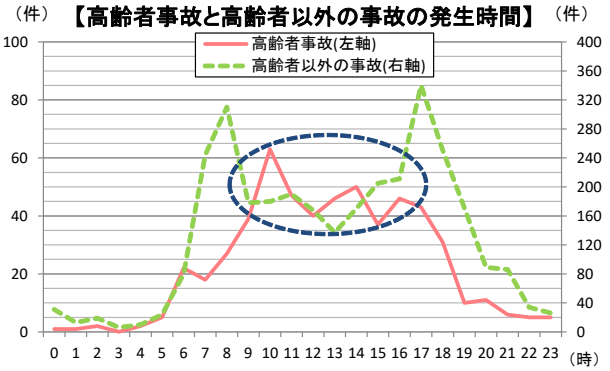


(2)　日中時間帯の発生が多い

昼夜別では、昼間の発生が79.2%（557件中441件）と、他の世代（3,173件中2,237件。70.5%）との割合は、あまり変わらないものの、他の世代よりも日中時間帯に発生が集中しました。

高齢者以外の事故は、朝夕の通勤・通学時間帯に多発し、それ以外の日中時間帯は減少したのに対し、高齢者事故は朝の発生は少なく、９時台から18時台の時間に発生し、10時台や14時台がピークとなりました。

【高齢者事故と高齢者以外の事故の発生時間】



4　過去10年間の高齢者事故の発生特徴

（基礎データ平成28年～令和７年）

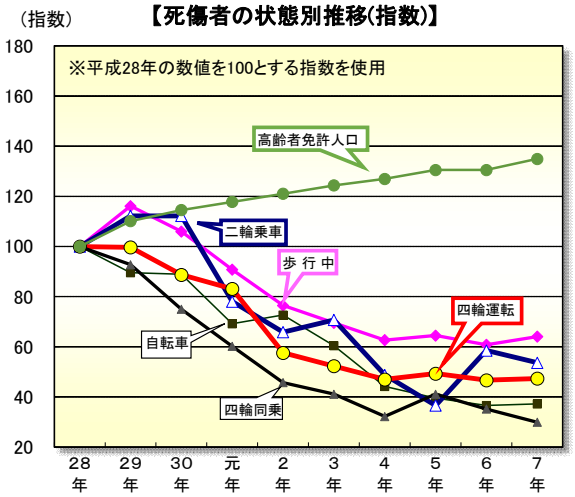
(1)　状態別では増減しながら減少傾向

状態別で見る死傷者数は全体的に減少傾向にあります。

令和７年は、四輪車同乗中、二輪車乗車中の死傷者が前年より減少しました。

また、四輪車運転中、自転車乗車中、歩行中の死傷者は、前年より増加しました。

【死傷者の状態別推移(指数)】

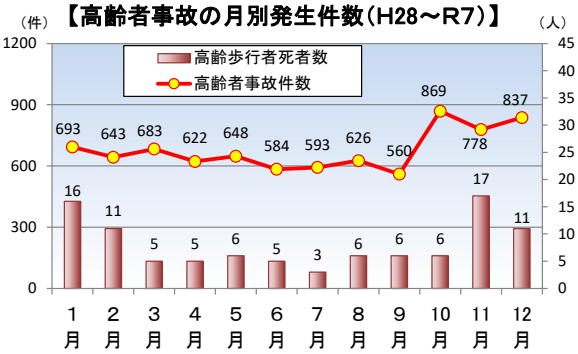


(2)　高齢者事故の月別発生状況

過去10年間の高齢者事故を分析すると、10月以降に多発する傾向にあり、夕暮れ時（日没前後各１時間）に事故が増加する傾向にあります。

高齢歩行者の死亡事故については、日没が早まる頃に増加し、11月がピークとなっています。

【高齢者事故の月別発生件数(H28～R7)】



宮城県警察本部交通企画課